



結界が
また破られてる…



彼の真の目的は分らないが
この領地を滅亡させたいのは
確からしい。

第一に考えられるのは
前回の結界を破った
犯人そのもの、またはその仲間。



そして第三に——
魔女教団の
仕業である可能性。

次に考えられるのは、
王選の候補者自身、
またはそれに縁ある者だ。



…



どう考えても、人為的と
しか考えられない…

しかも、相当に
腕が立つ人物による
ものね…

一体誰が何のために
こんな事を？
…心当たりが多すぎる…

その上で——
いや、だからこそ、
魔女教団のような存在を
国から駆逐するために
も、敢えて王選に立ったのだ

エミリアは、『嫉妬』の
魔女に似る自身の容姿が
魔女教団を刺激する
であろう事は、
重々承知していた。

…だとすれば…
やっぱりと言うべき
なのかも知れない…

でも…それならば、
尚更、屈していられない…!!

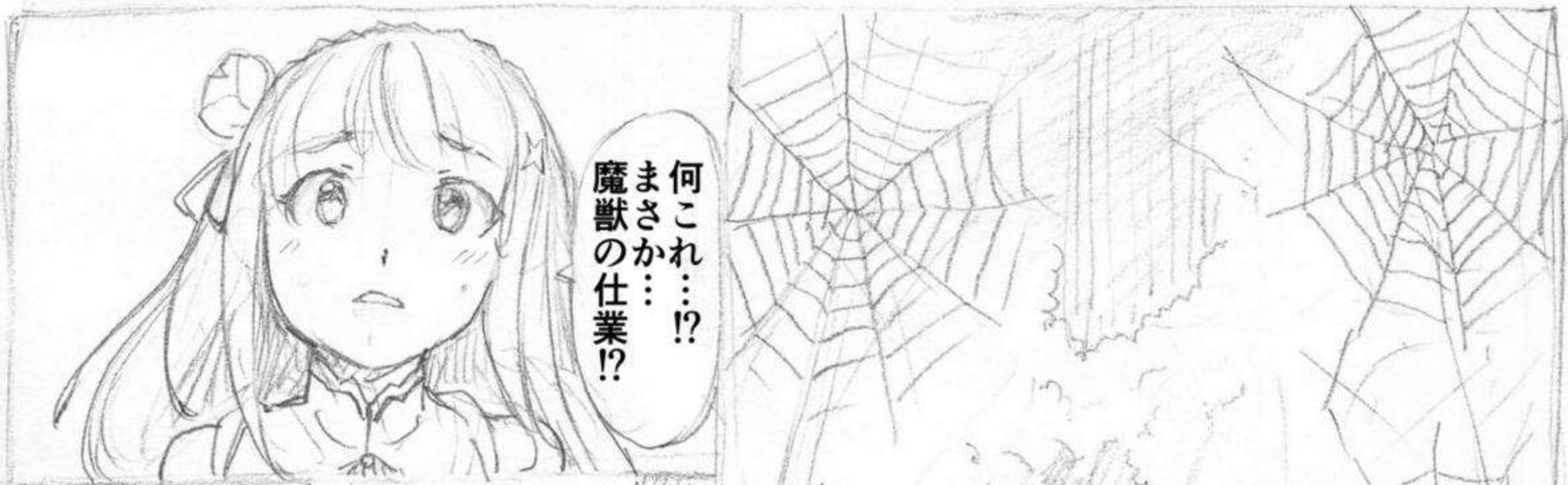
何よりもまず、
結界の修復
それから、
出来る限りの調査

蜘蛛の…巣

わぶ…っ!

紛らわしいなあ、
もっと別の変なものかと…

は…!!



何これ…!!?
まさか…!
魔獣の仕業!!



蜘蛛の巣を集めて、
これ以上先に進ませないように
妨害しているのかしら!!

だとしたら、この先に
結界を破った犯人
が居る!!



!



はっ

モ
ン

!?



何…!!



足が…

ペ
ン



蜘蛛型の魔獣!?

!!

早く…脱出しないと…!

モグ
モグ



お嬢さん、聞いたこと
ないかな？

蜘蛛の糸ってのは
鋼よりも強度がある
って話。

か細い一本一本なら、
人は乱暴にも引きちぎれる

だが
束ねれば、伝説の竜さえ
繋ぎ止められる…ってね

誰!?

まあ、でもよ、お嬢さん

いいねえ、その表情
そそるよお

オレはね、そんな強気な
顔をする女の子が
堕ちちゃう姿を見るのが、
スゲー好きなんだよ

こんな味気ない場所で、
アンタの綺麗な身体を
味わうなんて、
勿体ない事はしねえよ。

然るべき場所で、ジックリと、
もつと興奮を共有して、
味わおうじゃないか



ギョルル

ギッチギチに縛られる
つてのも、快感だろお？

ギョルル

!

ギョルルッ

ホントは裸で
拘束されるのが、
一番気持ちいいのさ

直の柔肌に暴力的に
食い込む糸の感触、
そして敏感な部分の
割れ目にまで入り込む、
キツキツの質感…!!

これで濡れない女は居なかつたぜ？
服の上からの拘束で残念だろうが



ひとまずは、お休み、だ
今度会う時は――

地獄ってよりは、天国さ。
アンタにとっても、オレにとっても、な



：大丈夫だ、安心しな。
その内、味合わせてやるからな：
拘束の生み出す、最高の快樂って奴を！



ここは——

テメエ、
ペテルギウス……!!

おやおや、私の名を知って
おられるとは!
光栄の限りですな、
“傲慢”の席を埋めるお人よ!

やはり、我ら魔女様に
祝福されし者!
特に貴方の祝福は、
私などもとても
及ばぬ程に濃密だ!
魔女様はきつと、
貴方様に我々に授ける
深淵なる知識を授けて
下さったに違いない!

んなワケあるかよ、
このキチガイ
野郎……ッ!

意味分からねえ事
ホザいてんじやねえぞ……ッ!

オレはなあッ! 絶対に
テメエの計画を
ブツ潰してやるッ!

テメエの思い通り
なんて絶対にならねえ、
精々吠え面掻けよ、
キチガイ野郎!

村も、レムも、
エミリアも、
皆この手で
守り抜いてやる……ッ!

エミリアッ!

そうでしたな、
貴方はあの娘を酷く気に
かけていたのでしたなッ!

力の差も
歴然な騎士と
一騎打ちまで
してみせたッ!

あの王選の大舞台でッ!
ズラリと並んだ王国の
騎士達の中でッ!
あの汚らわしい少女の為に、
勇猛果敢に啖阿たんかを
切りッ!

ああ、何たる美談ッ！
何たる青春ッ！

貴方の身に
受けた痛み、
恥辱ッ！



それを耐え切った
挙げ句の果てが、
少女からの心無き絶縁の
言葉ッ！

嗚呼、嗚呼、何たる悲劇ッ！
脳が、ふる・える・るッ！

だが、だがッ！
ここで震え切っては
いけないのですッ！

何故ならば、貴方には
更なる絶望がッ！
或いは、耽美がッ！
待ち受けている
のですからッ！

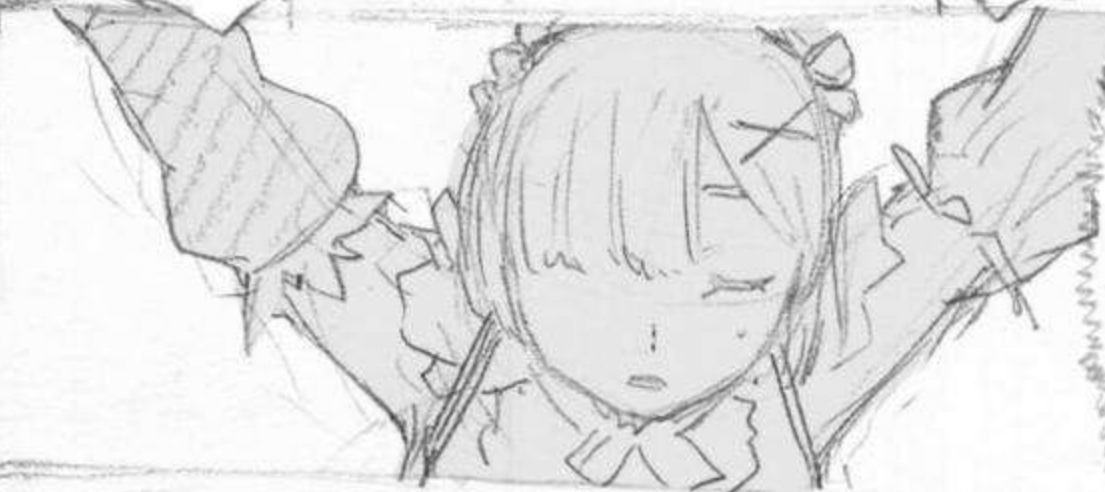


それを以てして、
私は真にこの脳髓を
震撼させねば
ならないのですッ！

それこそが、
私の勤勉の証ッ！



まさか——レムが
捕まって！？



あの鬼の娘も捕縛出来れば、
貴方を更なる深淵へ
と導けたことでしょうか…

忌々しくも、逃して
しまいました。
何たる怠惰、嘆かわしい
怠惰でしょうか…！



ササ

ササ

ササ

ササ

ペテルギウス様が
"傲慢"の席に
相応しいヤツだと
言っていたが…
拍子抜けだねえ

…あー、でも、
"怠惰"の号を
持つペテルギウス様も
勤勉だったりするからなあ。

大罪司教になるヒトってのは、
ギヤップを抱えてるモン
なのかもなあ

ペテルギウス様の事は
知ってるようだが、流石に
オレの事は知らないかあ

こんにちわ、"傲慢"の
候補者さん
オレはハリト。教団の中じゃ
"蟲遣い"って呼ばれてる

傲慢ってより、随分と
謙虚と言うか…臆病だねえ
。王選の場での武勇伝が
誇張のように
聞こえてくるよ。

ズ

ズ

と言っても、知る人ぞ
知る程度の
マイナーなヤツさ、
知らなかったからと
言っただけ恥じることはない。
ただし…

ワサ

ズ

ズ

ワサ

ワサ

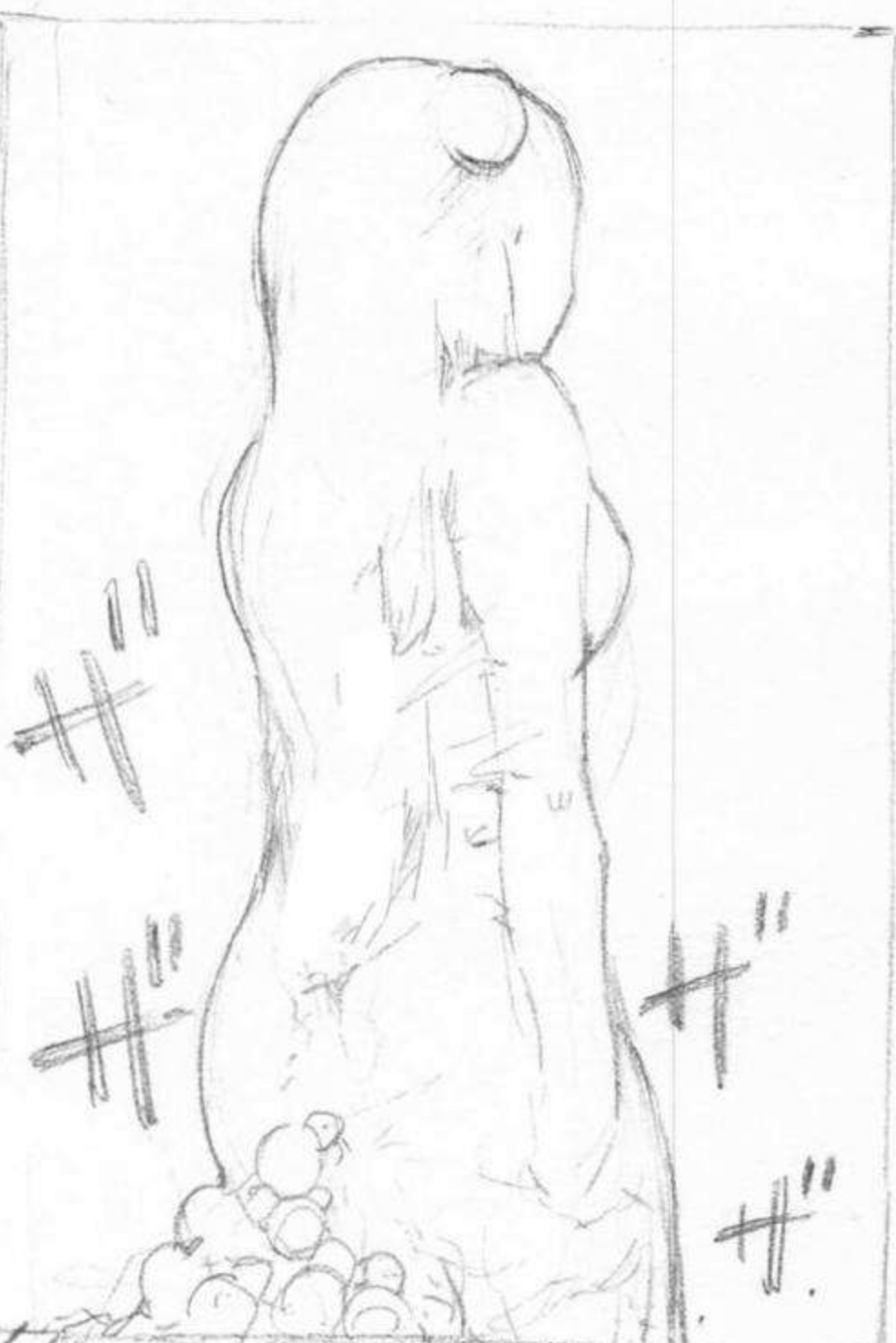
パチン

ワサ

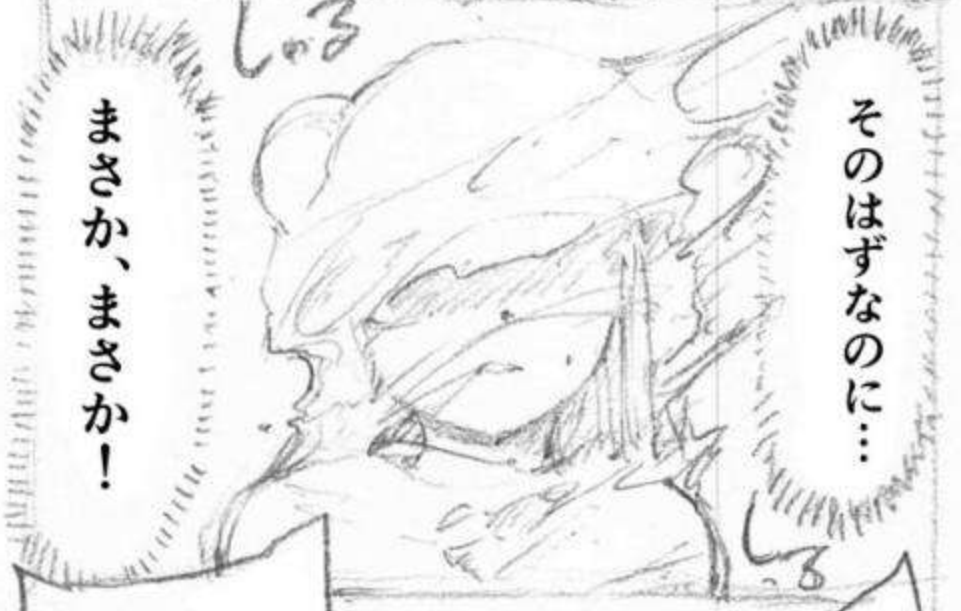




これからの事を見りや、
死んでもオレの事は絶対に
忘れられなくなるがなあ……！



そんな、まさか……！
ラムだっている！
ベア子だっている！
ロズワールさんが
居なくたって、
それなりに護衛は
出来ているはず……！



そのはずなのに……
まさか、まさか！



さあ、「傲慢」と
なる者よ！
その眼で、しかと
見つめるのです！
汚らわしき存在が、
芋虫が蝶へと
変じるように、
麗しき神聖なる存在へと
転じる瞬間を！

スバル!

スバル、どうしたの、
その傷は!?
何があったの!?
レムはどうしたの!?

それに...どうして
私達、こんな所に
居るの!?!
此処は何処なの!?!

スバルくんはね、
どうやら君を助ける
つもりだったらしい。
どうやってか
オレらの計画を
嗅ぎつけて
来たんだけどねえ。

オレの計画に必要なのは、
アンタとスバルくんなのさ

だから、オレはアンタを
此処に浚さらい、
ボコボコのスバルくん
と
ご対面させたのさあ

レムとか言う
小娘と2人きりで
どうにかなると
思ったのかなあ、
無謀にも過ぎる
よなあ?

計画!?

何よ、それ!

私は絶対、あなた達
みたいなヤツに力を
貸したりなんか...!

貸さなくても良いさ。
借りる気もない。
ただね...

貴方は!

ここで!

大人しく!
見守るのです!

蹂躞する
だけさ

!!!

恋い焦がれる者が
陵辱される様を
ただただ指を
啞えて見守るのは
怠惰の極み!

しかしながら、
勤勉を尊ぶ私ですが、
今は貴方の
怠惰を許します!

全ては
我らが悲願を
成就するためッ!

嗚呼っ、脳が
ふる・え・るッ!

んん…っ!
んん…っ!

エミリアアッ!
クソ、この変態野郎ッ!

んふうッ!

エミリアを
離せッ!

ん…んふ…

テメエらあッ!

んん…

んふう…

あ…

おやおやあ？
なあ、騎士殿よお？

アンタのお姫様ってばよお、
満更じゃなく
なってきたらしいぜえ？

見ろよ、この潤んだ瞳、
赤くなっただぼった唇、
そして唾液で光った唇
盛りの付いた雌豹
そのものじゃあないかあ？

ち…違うわッ！

いやいや、何も
違っちゃいないさ

むしろ、仕方のないことだよ。
これは、人間ってより、
動物の生理的で
自然な反応さ。

体を拘束され、感覚を
限定されてしまうと、
感じられる刺激ばかりを鋭く、
強く感じてしまう。

それが性的な興奮なら、
オレみたいな下衆野郎が相手でも、
どうしても悦楽を味わっちゃう。
それは仕方のないことなのさ。

あ…あう…

これでお姫様は、口以外の
全ての感覚を
封じられたワケだ

味わうことと
舌と唇で感じること。

身動きみじろぎして
抵抗しようとも
気を紛らせようとも、
手足が動かなきや、
どうにも出来ない。

大人しく、従順に、
刺激を受けられて
味わうしかないのさ。

ひ…っ！

そして…

音も聞こえないし、匂いを
嗅ぐことも出来ない
勿論、見ることもだ
出来ない。

それだけの
感覚が敏感になった所で
もう一度キスすると
——どうなっちゃうのか
なあ？

んん、積極的な娘は
大好きだぜえ

やめろよッ!!

ああっ、ああっ!
何という悲劇か!
いや、喜劇かも知れない!

感覚を遮断された少女は、
唯一残された性感に
すがりつき、数瞬前の
光景すら忘れ去って、
ひたすら悦楽を貪る

彼女を恋い慕う者が
眼前に居るにも関わらず!
忌んでいたはずの男と、
激しく情愛を交わす!

嗚呼、なんと脳が
震える光景ッ!

見てくれよ、
大罪司教様よお!

自由を奪われていた方が、
却って必死に
動き回るってのは、
滑稽な話ですがねえ!

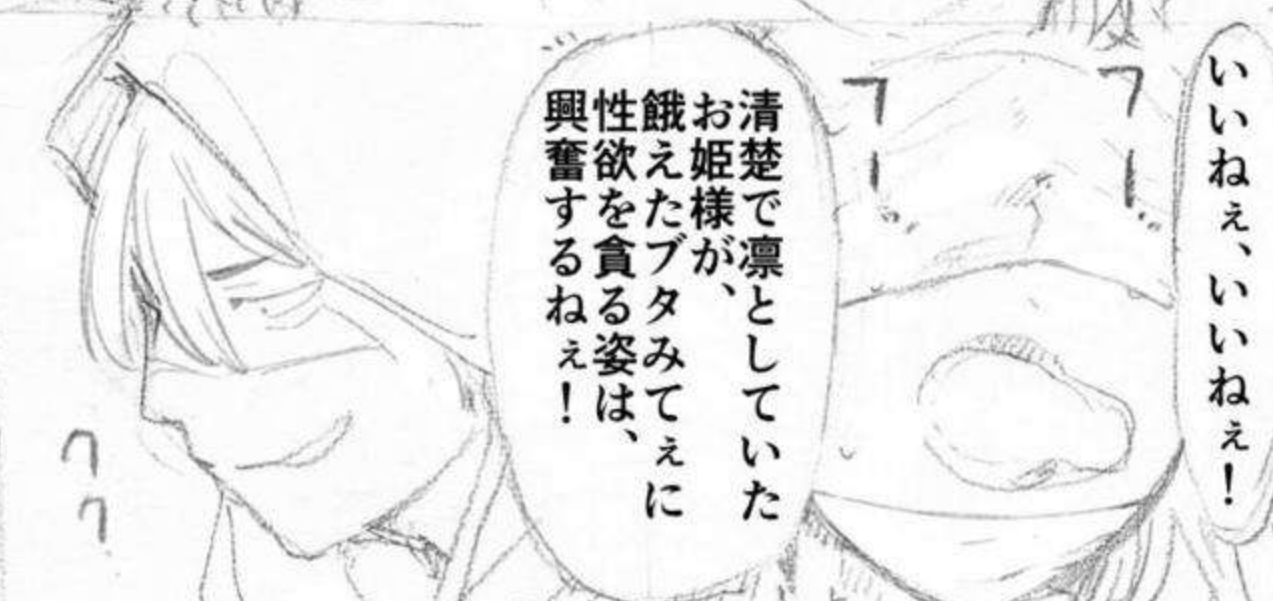
人間ってのは、
昆虫みてえにここまで快楽を
求めて、勤勉に動くんだぜえ!

ああう……ああう……!



さあて...お姫様、今度は
コイツで遊ぼうかあ?





清楚で凛としていた
お姫様が、
餓えたブタみてえに
性欲を貪る姿は、
興奮するねえ！

いいねえ、いいねえ！

さて、それじゃあ…

ネットリと舐め回して
もらおうかなあ！

やめろよッ！
クソッ、

やめるんだ、
エミリアあッ！

びち

びち

びち

びち

びち

っ

ハ

ハ

ハ



お姫さんよお、
経験あるんじゃないかねえのかあ？
スゲエ舌使いだぜえ…！

良いぜえ、
良いぜえ！

オホッ！

おっと…！
ロマンコの奥まで
一気に刺しちまった
…！

もっと楽しむ
つもりだったんだがな…！
腰が砕けちまったよ…！

はる

ズド
ズド

ん、
キョロ
キョロ
キョロ

キョロ
キョロ
キョロ

ん

ん

良いぜ、良いぜ、良いぜ、良いぜ
良いぜ、良いぜ、良いぜ、えッ！

又キッ

又キッ

あ



又キッ 又キッ

やめろお…！

やめてくれえ…！

んくっ！
射精だすぜ
…ッ！

又キッ
あ
又キッ

頼む、
やめて…ッ！

ビュッ
ビュッ
ビュッ

ビュッ
ビュッ
ビュッ

ビュッ
ビュッ

「ジュッ」

んんッ！

又キッ



んん…んん…んん…

んん

んん

んん

んん

んん



んん

んん

んん

…うふう…

シヨンベン
出るなら、
飲ませたか
んだがなあ

ザー汁しか
出ねえぜ
つまんねえな

スバルの絶望は、
彼の人生における
ド底に
陥っているが…

こんな状態で口だけ
味わうってのは、
無粋に過ぎるって
もんだぜ

スロク…

あなた、本当に
怠惰ですねえ

力も無く、ただただ
片思いの相手が
淫行に染まるのを
見つめるだけとは

悲しいほどに、
怠惰ですねえ

悲しいことに、
ハリトによる陵辱は
これで終わらない

—むしろ、ここからが本番なのだ。



んん

んん

んん



しゃる



しる

くちん

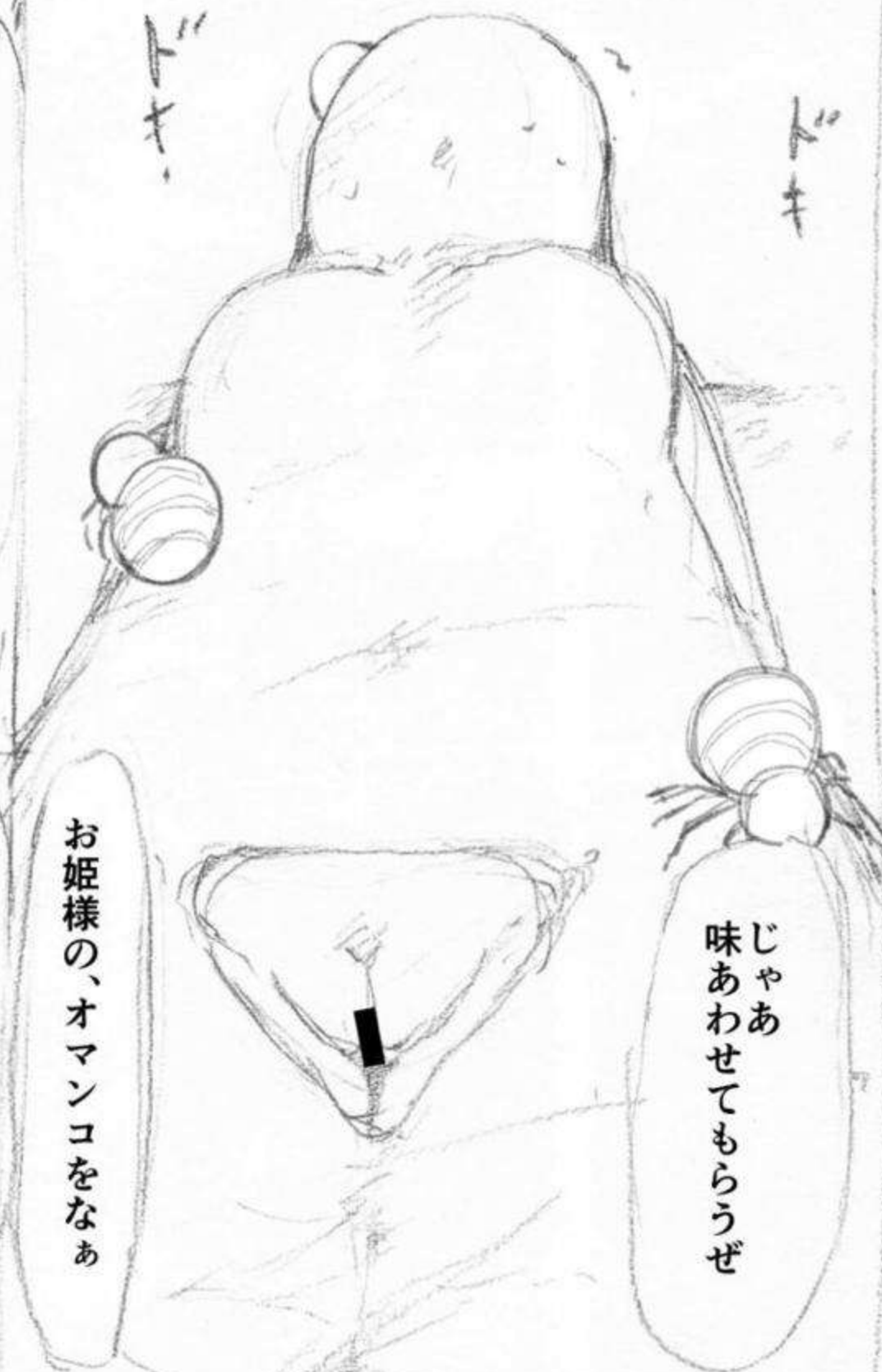
くちん

おーおー、お姫様よお
この拘束の良さを
シツカリと理解した
みてえだなあ！

身を震わすような興奮！
しかし、一指だに
動かせぬもどかしさ！

ドキ

ドキ



じゃあ
味あわせてもらうぜ

お姫様の、オマンコをなあ

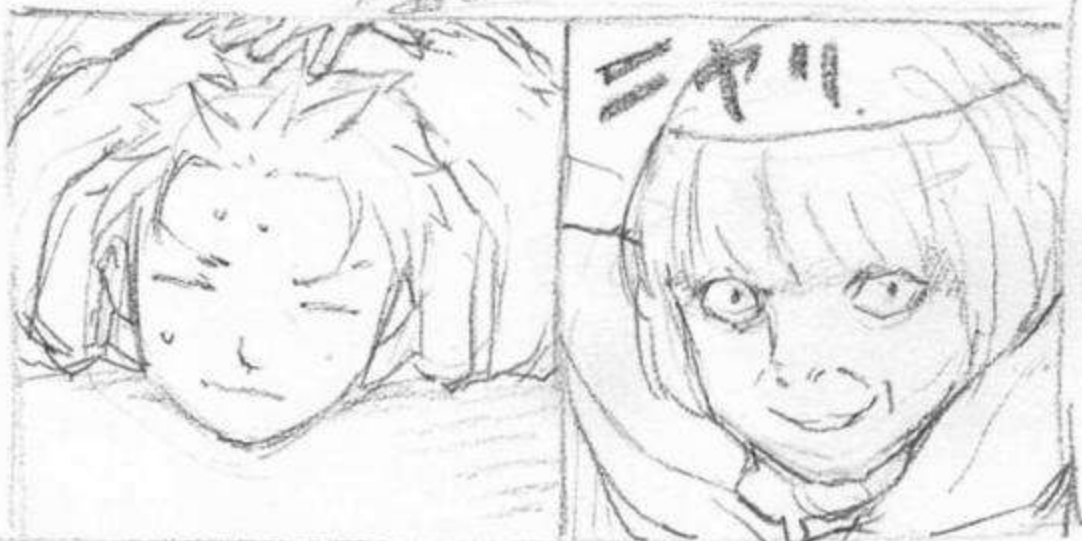
その真っ向からの
対立が生み出す、噴火直前の
マグマみてえな絶頂感！

処女のくせに、
メスブタみてえに
濡らしちまってよお！

いい匂いさせて、誘ってやがる！

ピク

ピク



ニヤリ



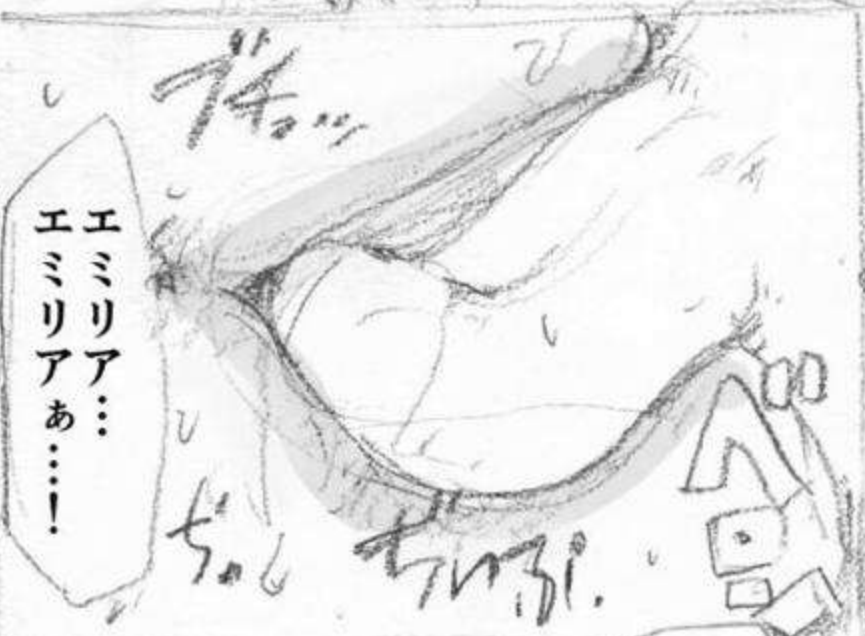
ビハハッ!
いい匂いだなあッ!
良い味だあッ!

さすがは処女、
売女みてえな
ドブ臭いぜえ!
全然ないぜえ!

アム



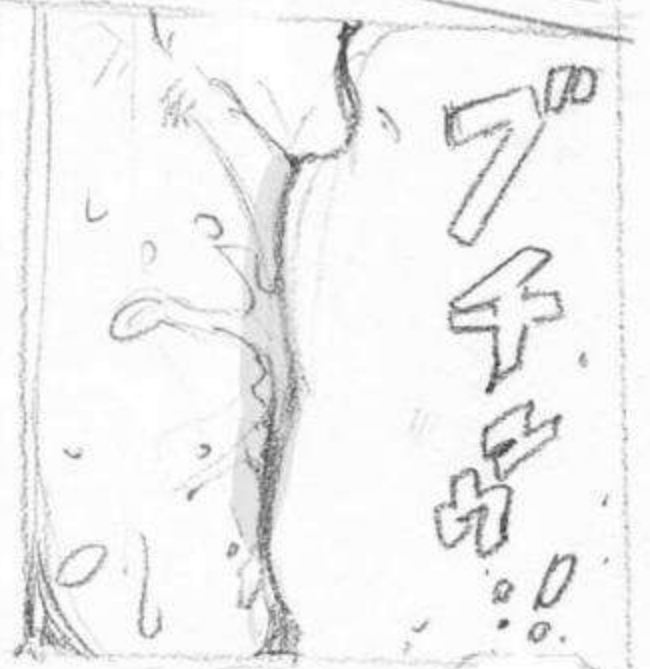
アム



エミリアあ……!



ピク



ブチ



ああ、脳が
ふる・え・るッ!

素晴らしい勤勉ですッ!

手足も使えないのに、
このようにお励みに
なるとはッ!



なんとも
勤勉なことですッ!

まんざらではない
じゃないですかッ!



あなたの
ココと来たらッ!

おやおやあ?
気遣ってらっしゃる
ようですが、
おかしいですねえ!?



挿入いれるぜ…!

アッ

アッ

アッ

さあて、お姫様

そんなエロい味と
匂いさせてたらよお、味見だけ
じゃ収まらねえじゃんかよおッ!

アంతタももう、我慢の限界だろお?
オレももう、たまんねえよおッ!

アッ

おおっ!!
おおっ!!
すげえっ!!

すげえなあつ、
処女マンコはよおッ!

どうだ、騎士様よッ!?
ああッ!?

ピキ...
グキ...

ああッ、すげえッ!
締め付けが
すげえッ!

これが処女の膣か
スゲエスゲエッ!

これが、アンタが
欲しがってたお姫様の
破瓜だよッ!
オレが頂いちまったよッ!

ズ
ズ
ズ

チンコが
蕩けるッ!

び
ちゅっ

び
ちゅっ

やめてくれ
よお...!!

怠惰は罪、
怠惰は罪、
救える力も
磨かずに、
のうのうと
息を吸って
吐くばかりの
怠惰な生活は、
まさに罪ッ!

ガ
ガ
ガ

